



北海道大学

# 観光ルート考案の提言

HALCC 観光班

2017年11月21日

北海道大学 大学院

岡田、地井、引地、村越、菅原

# 背景

## ① 昨年の政策提言

- ・地形の弱みを克服  
→観光資源の孤立の解消
- ・既存の観光資源の活用
- ・冬場の観光資源不足

## ② まちとしての目標

(基本目標2)

- 「津別町への新しいひとの  
流れをつくる」  
→観光入込者数の増加

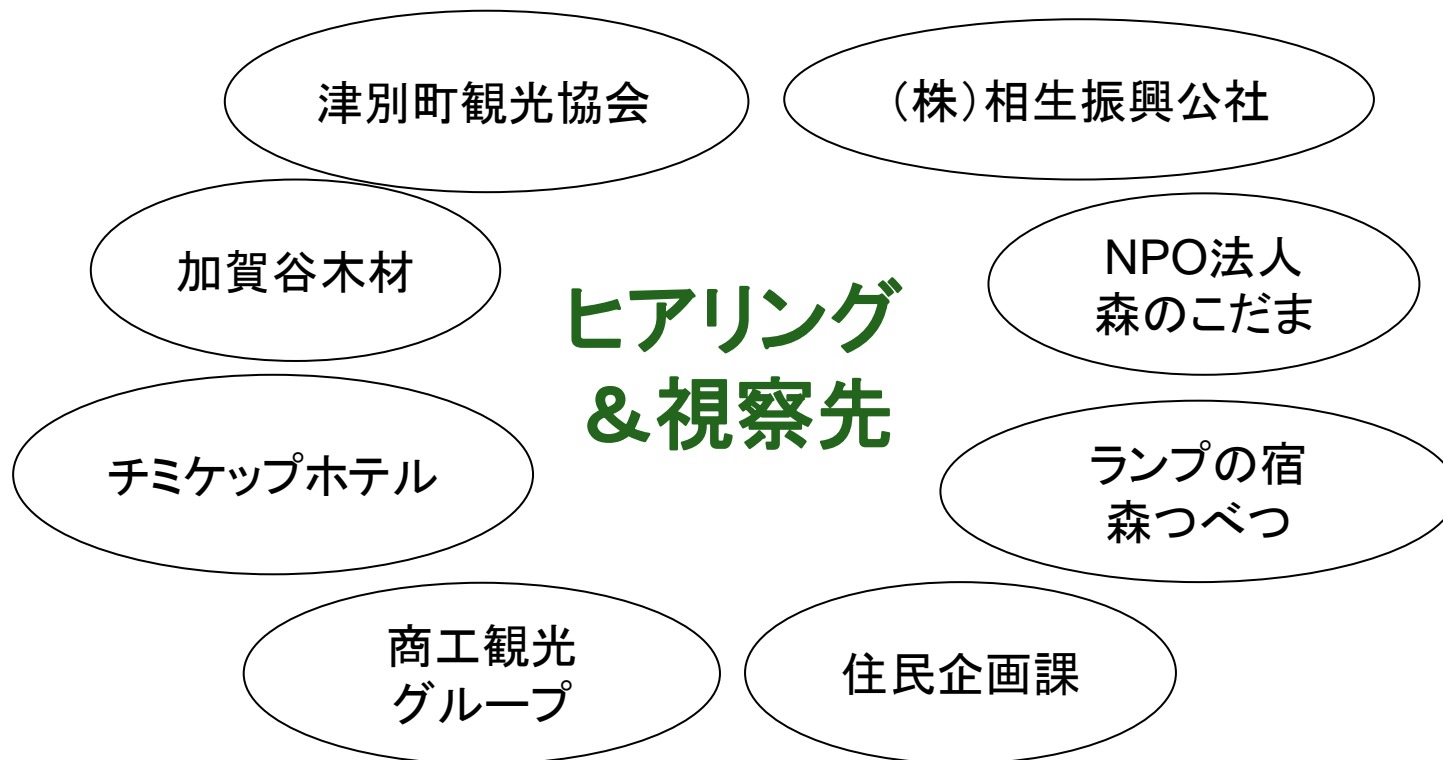


# 目的

- ①外から見てバラバラな津別町の特徴をつなげる
- ②津別町の新たな楽しみ方の選択肢を増やす・つくる
- ③津別町に眠っているポテンシャルの活用



# 現状分析



# 観光ルート考案のために

## 共通課題

人材面

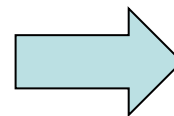
情報面

将来予測



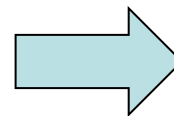
# 対策

人材面



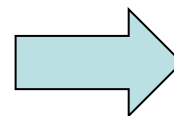
組織間連携  
町内での人材の掘り起こし

情報面



PR方法の工夫

将来予測



専門家の活用



# 観光ルート構想(コンセプト)

## <既存>

- ① 既存観光資源の活用  
季節(主に夏と冬)に  
応じたストーリー

## <新規>

- ② 産業観光
  - ・産業全体・・・「津別らしい」産業
  - ・産業の担い手(ex,個人や企業)に着目



# 既存の観光資源を活かすルートの課題と提言

## <課題>

- ・観光施設間の連携
- ・組織間の連携

## <方策>

- ・国内国外のニーズに合わせたストーリー立て
- ・施設間ガイドのバトンタッチ
- ・テーマ性のあるスタンプラリー





# 新たな観光の課題と提言

## <課題>

- ・「津別らしさ」を伝えられていない(→①)
- ・担い手の負担(→②~④)
- ・費用対効果(→⑤)

## <方策>

- ①連携地域との交流
- ②行政や観光協会の協力
- ③ガイド育成
- ④補助金ではなくモノ(用具)として補助する
- ⑤将来予測の検証



# 観光ルート考案が津別にもたらすもの

- ①一体感の創出
- ②町民がまちに誇りを持つ
- ③まちに来た人が新たな気づきを得る

